



開幕まであと163日!

中部芸術文化記者クラブ同日発表

平成25年2月28日(木)

愛知県県民生活部文化芸術課

国際芸術祭推進室事業第二G

担当: 小田・朝岡

電話: 052-971-6127

内線: 724-691・692

折り紙のように折って楽しめる! あいちトリエンナーレ 2013 普及教育リーフレットを配布します

あいちトリエンナーレ実行委員会では、より多くの方々に現代アートを身近に感じていただくとともに、広くあいちトリエンナーレ 2013 の周知を図るため、普及教育リーフレットを配布します。

このリーフレットは、トリエンナーレの開催概要や、参加アーティスト4名のあいちトリエンナーレにかける想いを紹介するものです。折り紙のように折ることによって、パクパクと開いて遊びながらメッセージをご覧いただける作りになっており、造形の楽しさも味わっていただけます。

1 内容

【おもて面】

あいちトリエンナーレ 2013 の概要 (リーフレットの折り方も掲載)

【うら面】

あいちトリエンナーレ 2013 の参加アーティスト4名のトリエンナーレにかける想い

アーティスト名	活動拠点	分野
ソ・ミンジョン	ドイツ	現代美術
ヤノベケンジ	日本	現代美術
ままごと (主宰 柴幸男)	日本	パフォーマンスアート
た おしたてつ 田尾下哲	日本	プロデュースオペラ (演出家)

2 発行部数及び主な配布先

10万部

- ・県内外主要美術館
- ・県内主要公共レジャー施設、図書館、ホール、公民館、及び生涯学習施設
- ・イオンリテール及びアピタ県内各店舗
- ・県内書店 等

3 配布時期

3月上旬から順次配布予定



おもて面の説明どおりに折ると・・・



完成! パクパクと開いて遊べます。



うら面でも
楽しめます

メッセージ寄稿者

ソ・ミンジョン (SEO Min-jeong) 〈現代美術〉

1972年釜山(韓国)生まれ。ベルリンを拠点に活動。

ソウルの弘益大学と東京の多摩美術大学大学院で版画を学んだ後、2003年から2008年までドイツのシュトゥットガルト州立アカデミーで美術を学ぶ。複数の文化を横断しながら、主題を作品のなかに集約するミクストメディアによるインスタレーションを発表している。

物語性のある建物、歴史的な事件現場、社会構造のために疎外された地域などに関心を寄せるソ・ミンジョンは、これまでシリーズ作品「Sum in a Point of Time」(ある時点の総体)で、ドイツの美術館の展示空間や韓国の売春宿といった実在する建築物をモチーフにしてきた。発砲スチロールで約3/4のサイズに緻密に再現された模型をいったん壊し、それを会場内で一時的に解体された瞬間のように再度組み立て直し、展示する。いつか何らかの理由で失われてしまうかもしれない建物や人々の歴史と記憶の脆さを実際に体感できる作品をつくり出すことで、建物とそこに携わる人々がもつ「過去」、本来は留めることができない「瞬間」、私たちが生きる「現在」といった異なる時点が重なり合う場を創出する。あいちトリエンナーレ2013では、名古屋市政資料館の地下留置所をモチーフにした新作を展示予定。

ヤノベケンジ (YANOBE Kenji) 〈現代美術〉

1965年大阪生まれ。大阪と京都を拠点に活動。

幼少のときに体験した大阪万博の跡地、すなわち「未来の廃墟」を創作活動の原点と位置づけ、サブカルチャーによる造形美と物語性とを巧みに織り交ぜながら、ロボットや生活必需品などの大型機械彫刻を制作。90年代は、ガイガー・カウンターを装備した《アトムスーツ》を自ら着用し、原発事故後のチェルノブイリを訪れるなど、世紀末的なサバイバル・プロジェクトで注目を集めた。しかし、新世紀を迎えると、制作テーマをリバイバルへと移行させると同時に「太陽」をシンボルに掲げ、「未来の廃墟」から2本足で立ち上がる3mの人形《スタンダ》や、解体されたエキスポタワーの断片から生命の塔を再生させる計画など、次世代に向けてポジティブな想像力とメッセージを強く打ちだしていく。また、2010年発電所美術館での「ミュトス」展では、天井に吊り下げた水瓶に5tの水をしたため一気に放出するインスタレーション《大洪水》を手がけ、予言的なまでに時代に鋭く斬り込む作品で人々を震撼させた。そして東日本大震災後、希望のモニュメントとして、防護服のヘルメットを脱いだ6mの子ども立像《サン・チャイルド》を発表し、太陽の塔の広場や第五福竜丸展示館、モスクワやイスラエルなどの世界規模で巡回を続けている。

ままごと (mamagoto) 〈パフォーマンスアート〉

劇作家・演出家である柴幸男(1982年愛知県一宮市生まれ、平成23年度愛知県芸術文化選奨文化新人賞受賞)の作品を上演する団体。

何気ない日常の機微を丁寧にすくいとる戯曲と、演劇外の発想を持ち込んだ演出から普遍的な世界を描く。演劇を「ままごと」のようにより身近に。より豊かに。あいちトリエンナーレ2010 祝祭ウィーク事業出演団体。

田尾下哲 (TAOSHITA Tetsu) 〈プロデュースオペラ演出〉

兵庫県生まれ。東京大学工学部建築学科卒業。同大学院学際情報学府修士課程修了。

オペラ演出をミヒャエル・ハンペに学び、新国立劇場でチーフ演出スタッフとして約70のプロダクションに参加し、日生劇場、二期会等でも演出を担当。09年、チューリヒ歌劇場『カヴァレリア(道化師)』で、共同演出・振付を担当し、ヨーロッパデビュー。以後、コーミッシェ・オーパー・ベルリン『ラ・ボエーム』(アンドレアス・ホモキ演出)、NYリンカーンセンター『神経症ギリギリの女たち』(バートレット・シャーマン演出)などに参加。ミュージカル演出ではホリプロ『ボニー&クライド』、東宝『ソングス・フォー・ア・ニュー・ワールド』、フジTV『プロミセス、プロミセス』などがあり、劇作家としての活動も行っている。平成21年度五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。